



みんなの不安を無くすため 明るく笑い、前を向く

第一生命保険株式会社
二宮 三保 さん

平成30年7月豪雨災害の吉田公民館避難所でリーダー的役割を担い、避難した子どもや高齢者などの状況確認や避難所での生活、支援物資の管理などの運営にも協力していただきました。



発災当時の避難所の様子



避難所を出た後も交流会が開かれました

平成30年7月豪雨災害では吉田公民館の大ホールが避難所となり、二宮さんも自宅への浸水により、身体の半分以上が浸かる中で避難した避難者の1人でした。

二宮さんがやっとの思いで避難したときは、突発的な出来事で非常食の準備や避難所の設営などがうまく進んでおらず、現場は混乱していました。

そんな中、二宮さんがまず考えたのが食事のことでした。避難した時間が正午に近く、自分だけでなく避難者全員の食事を早く用意することが必要だと思い、自分ができることはないかと動き始めま

した。

それから衛生面などを含めた避難所運営にも携わり、協力する人も増えていき、行政と話し合いながら避難者の不安を少しでも取り除けるよう動きました。二宮さんと仲間の明るい笑い声が周りの人の気持ちを明るくしていき、避難所を出るとき「あなたたちのおかげで私らも気分が落ち込まずにすんだよ」という人もいたそうです。二宮さんは「私自身が普段から地域の人と交流があったから運営に協力できた。お互いができることを協力してやっていけたらいい」と明るく語ってくれました。